

論文審査の結果の要旨

報告番号	博(医歯薬)甲第 1437 号	氏名	Jean Claude Palma Balingit
学位審査委員	主 査 安田 二郎 副 査 吉田 レイミント 副 査 南保 明日香		
<p>論文審査の結果の要旨</p> <p>1 研究目的の評価 フラビウイルスに対する特異的な中和抗体測定法として従来実施されてきたプラーク減少中和試験 (PRNT 法) は手技が煩雑であり、多数の検体を処理するのに時間がかかるなどの欠点があった。 本研究は、上記の問題を解決するために簡便に多数検体のウイルス中和抗体を測定できる手法の開発を目的としており、目的は十分に妥当である。</p> <p>2 研究手法に関する評価 簡便に多数検体のウイルス中和抗体を測定できる手法として ELISA 法を組み合わせた方法 (EMNT 法) を開発し、患者血清や抗フラビウイルス単クローン抗体を用いて従来法である PRNT 法と比較解析して有用性を評価しており、研究手法も妥当である。</p> <p>3 解析・考察の評価 比較試験の結果、PRNT 法と EMNT 法の結果に高い相関を確認され、EMNT 法が簡便かつ信頼性の高い中和抗体測定法であることが示された。また、PRNT 法では中和抗体価を調べるのに 5-7 日間要していたが、EMNT 法では 3 日間に短縮されており、更に、96 穴あるいは 384 穴プレートを用いた多検体の試験も可能であることが確認されており、簡便、迅速かつハイスループットな新規中和抗体測定法であることが示された。</p> <p>以上のように、本論文で開発した手法はフラビウイルス感染の新たな血清診断法としての活用が期待されるものであり、審査委員は全員一致で博士 (医学) の学位に値するものと判断した。</p>			